九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

総合医学、内科誌Impact Factor上位3誌の被引用回数とMEDLINE Publication Types の2002-2006年調査ー前向きコホート研究

三浦，誠
九州大学情報システム部情報基盤課デジタルライブラリー担当　図書系職員

https://hdl.handle.net/2324/14919

出版情報：医学情報サービス研究大会抄録集. 26, pp.23-23, 2009-07-04. 医学情報サービス研究会大会事務局
バージョン：
権利関係：

一般演題Ⅱ（情報の分析・統計）07

総合医学、内科誌 Impact Factor 上位 3 誌の被引用回数と MEDLINE Publication Types の 2002-2006 年調査：前向きコホート研究

三浦　誠
九州大学情報システム部情報基盤課デジタルライブラリ担当（図書系職員）

Ⅰ.はじめに：　第24回（長崎）医学情報サービス研究大会で、evidence-based medicine（以後EBMと表示）文献の重要性計る方法として、総合医学・内科誌インパクトファクター上位3誌New England Journal of Medicine, JAMA, Lancetを利用した。2002-2004年被引用回数の3年間平均を後ろ向きコホート研究として、MEDLINEのPublication Type（以後PTと表示）を調査した。EBM関係は3誌平均の1.7 倍以上引用されていた。今回は、その報告から2年経過を前向きコホート研究として、どのPTがよく引用されているか調査報告する。

Ⅱ.方法：　24回大会3誌被引用回数を1年経過(2007年調査)、2年経過（2005-2006年を追加）(2008年調査)被引用回数を調査した。この経過被引用回数に1年前の被引用回数引くことにより年間の被引用回数を知ることができる。この被引用回数は出版年に関係なく年間の回数がわかり、どのPTが良く引用されているか、より正確に知ることができる。なお、24回大会では2007年に追加PTが出現し、Comparative Study（以後CSと表示）以外のConsensus Development Conference等は利用していない。今回は全てのPT被引用回数の調査を行うため、PubMedから2002-2006年の3誌のJournal Article, Reviewの全PTをダウンロードし、「Web of Science」の3誌被引用回数と併合して調査を行った。

Ⅲ.分析　被引用回数には、出版年経過と論文数が関係ある。3 誌各年総被引用回数経過を Journal Citation Reports(以後 JCR と表示)の Cited Half-life 使用し比較を行った。JCR の Impact Factor と 3 誌各年平均被引用回数と比較した。3 誌各年総被引用回数推移は経年の影響はなかった。論文数については、論文数の件数推移の多い Lancet や JAMA にその影響が見られた。

Ⅳ.考察　3誌全体で平均被引用回数以上のPTを2002-4年(2007年調査)は50件以下と以上に分け、2002-6年(2008年調査)は件数増加のため75件以下と以上に分け考察を行った。今回の調査で一番引用されていたのはPractice Guidelineで、2008年調査では平均200回以上引用されていた。件数の多いPTではMulticenter Study（以後MSと表示）が両年とも一番引用されていた。2007年調査は平均の約2.1倍、2008年調査は平均の約2倍であった。件数の多いPTでは各3誌2007-8年調査で概ね一番引用されていたのはMSで、例外としてLancetの2008年調査でRandomized Controlled Trial（以後RCTと表示）の次の2番目であった。

Ⅴ.結論　PT 件数が 76 件以上の 3 誌平均被引用回数上位 5 つの PT、MS, Randomized Controlled Trial, Clinical Trial, CS, Meta-Analysis を世界、3 誌、日本を PubMed で占める割合を 2002-4 年、2002-6 年で比較した。この結果、日本は EBM 関係が世界や 3 誌と比べ少ないが、CS は、世界や 3 誌より多かった。